常磐毎日新聞

日刊

八月七日　夕刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月金五拾錢　郵稅五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　福島縣平町長橋町三五　坂本忠治
發行所　常磐毎日新聞社　電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社　（振替口座）東京四〇二〇番

天氣豫報

今晩は南の風驟雨模樣
明日は南の風晴驟雨模樣

平市長には……

青沼氏滿場一致か

市制實施に件ふ案件を山と積んで市會開かる

平市會は來る十日午前十時から市會議事堂に開かれ市長選擧を殿軍に控へて左記廿件の附議事項があり豫算や條例、委員の設置等何れも市制實施に件ふ案件とて一般の注目を蒐めて居るが結局市長は現臨時代理の青沼鉾太郎氏が滿場一致を以つて當選を見るに至る模樣である

一、昭和十二年度平市歳入出追加豫算の件
一、同年度特別會計基本財產歳入出追加豫算の件
一、特別稅戶數割條例の件
一、特別稅戶數割條例施行規則の件
一、公告式條例ノ件
一、常設委員設置規則の件
一、學務委員設置規則の件
一、傳染病豫防委員設置規則の件
一、市醫設置規則の件
一、名譽職員費用辨償額報酬額及支給條例の件
一、吏員給料旅費支給條例の件
一、學校授業料免除規則の件
一、平消防組組織變更の件
一、平消防組諸給與規則の件
一、都市計畫委員選擧の件
一、區長及區長代理者推薦の件
一、臨時委員推薦の件
一、市參事會委任事項議決の件
一、市長選擧の件
一、市制第九十一條に依る處分事項報告の件

健康への欲求が直ぐ數字に現る

ラヂオ体操參加者

日毎增加する一方

夏の健康日を誇る平市民のラヂオ體操の會は既報の如く去る一日から市內第一、第二、第三の各校庭に開始されたが昨六日迄の出場者延人員は二萬二千百六十九人で昨年の一萬八千七百六十四人に比し三千四百五人の激增を示してゐる、連日の出席者は

一日	三、四三〇
二日	三、六〇四
三日	三、六五三
四日	三、七二〇
五日	三、七九八
六日	三、九六四

で表が示す通り逐日增加の一路を辿りこの調子では五千名を突破する日もあると見られ全市民の健康への欲求が今後どの位迄數字を强めてゆくか興味をもつてみられてゐる

救命船も備へて

實質的の水難救濟

けふ小名濱で協議

資金難打開

小名濱漁業組合は郡下各濱の水難救濟會支部が最近資金難に陷り本格的活動が出來ないのを遺憾とし今七日午前十時から同組合樓上で本部理事高木富次郎、石井二郎の兩氏並に八卷平署長等を招き今後の資金造成策に就いて協議したが救命艇の設備や水難者遺族救護等實質的の活動を開始する事になると

投票賣込み

內郷村で發覺

けふ平檢事局に檢擧

內郷村高坂炭礦坑夫田崎義正（三五）は昨六日平署に檢擧され選擧違反で取調べを受けてゐるが去る六月九日執行された同村議選擧に際し渡邊安吉氏の運動員淺野東吉氏に對し『確實な投票が十票程ある』とて投票の賣込みを企てゝ拒絕されたこと發覺したものである

日大出身同窓會開く

郡下在住日本大學出身者は來る十二日午後三時から平市住吉屋本店に參集同窓會を開くが市內在住者は左の如くである

池谷宗三郎、吉田久雄、金成忠義、增田之、鈴木正男、市原三三男、黑澤庾、大河內一郎

市內の極貧者に救ひの手

舊盆も迫つて

仲には不所存者もある

平市の社會事業助成會は舊盆も間近になつたので例年通り市內の極貧者を救濟する事となり近く各區長に依賴し該當者を調査するが今年は軍人の遺家族に對しては特に考慮を拂ふ方針であると、尙從來の例からみると救濟される事を自分の特權の如く心得てゐる不處存者があるので幾分手心を加へる事になつたと

產業座談會

澤渡村は明八日午前九時から同村小學校で產業組合設立指導座談會を開く、講師は產業組合中央會熊谷主事

銃後の支援

軍人遺家族の醫療は無料に

郡醫師會が決議

郡醫師會は此程臨時總會を開き銃後運動に關し協議したが軍人遺家族に對しては無料又は半額で醫療に當る事となつた

國防献金

其の後の分

平署管內聯合保健組合平支部員一同は各一圓宛を醵出して合計二十九圓を國防費へ、內郷村金坂納稅組合は十圓を慰問費としていづれも今七日平署へ、また高久村大字下高久字原箱崎マス子さんは〃千人結び〃を、田町四八今井多鈴子さん及び双葉郡富岡町小塙池田トシ子さんの兩名は慰問袋をいづれも今六日市役所へ夫々寄託した

滿鐵の從業員に

二十二名が合格

既報滿鐵從業員の採用試驗は去る二日郡山、三日福島の兩市で行はれたが平職業紹介所からの志願者百八十二名中左記二十二名が合格した

△双葉郡大久村木田貴一郎、浪江町佐藤義明、同廣畑圭、大野村泉田英夫、△石城郡大野村紺頼義明、草野村新妻得平、上小川村高木孝平、鹿島村高萩章夫△相馬郡福浦村吉岡德、同引地德三、飯豐村阿部三郎、金房村市ノ瀨秀雄、同木幡俊男、同大井章、同太田繁芳、日立木村平田則雄、大野村吉田豐、同滋名俊則、中村町木幡千里、同豐田長助△伊達郡茂庭村渡邊儀雄△田村郡二瀨村矢部三夫

在營兵の農事手傳

鄉軍の美擧

石城郡渡邊村在鄉軍人青年團員等百餘名は同村出身兵草野豆聖（三五）君外三名の留守宅を四日訪問四組に分れて農事の手傳へをなしたので草野君方は老母と妻の手に五人の子供を殘して行つたゝめ今後どうしやうと思案に餘つてゐた折柄とて非常に感激してゐる

出穗に花咲く

「分場の新品種」

結實の結果を注目

愛國二十號の植付試驗

本縣農事試驗場石城分場では昨年試作の愛國二十號種中の特にズバ拔けて出穗した二株を別に收穫し本年約一坪に植付試驗したところ七月二十七日頃から出穗し目下開花の盛りである、この樣に植付後四十日間で開花したのは本縣は勿論東北地方にかつて見ざるところで同分場では非常に期待をかけ將來これを新品種として奬勵すべく結果を注目されてゐる

籠球練習

第二校準備

平第二校は今秋女子師範學校兒童籠球大會に備へ目下尋常科は渡邊（啓）、草野、井出、高等科は常陸、塚本、横山の各訓導コーチの下に猛練習を行つてゐる

母校を懷ふ

海兵の至誠

石城郡泉村役場へ四日朝軍艦神威の一水兵として目下建築中の小學校費にと五圓の小爲替を送つて來たものがあつた時局柄に拘らず鄕土を思つてゐる心根は素晴しいものだと江尻村長以下ホロリとさせられた、尙この奇特な水兵さんの身許を照會中

小娘暴行

近く公判に

既報勿來町大字窪田字小島六三日屆鈴木太津二郎（三二）に係る暴行致傷事件は過般來平支部で關口豫審判事係りの下に取調べを行つてゐたが今七日終結有罪と決定起訴公判に廻された、同人は去る四月二日午後三時頃勿來町大字關田字關山地內海岸松林で十一才の小娘に暴行し全治的二週間の傷を負はせたもので公判は近く平支部で中島裁判長係りの下に開廷される

衣類の整理を

女子青年團員が學ぶ

今明兩日講習會

平女子青年團主催の衣類整理講習會は既報の如く今七日午前八時半から第二校講堂に開催された講師は東京市醇化學研究所の齋藤衛氏でクリーニング防水加工等に就いて實地指導あつたが出席者は約二百名の盛況尙明八日も引續き開かれる筈

短期現役

俸給支拂

本年三月本縣師範學校を卒業し新任地を配置されたまゝ短期現役として入營した敎員の俸給費は此程國庫負擔法により縣下各町村に對し一齊に交付されたが本郡關係町村は左の如くである

△七十五圓植田、勿來、川部、鹿島、永戶、△百五十圓平、赤井

裁判所視察

既報大審院の竹松檢事は今七日午前六時五十分着で來平、裁判所の事務視察を行ひ午後二時十分平發で歸廳

賭博罪罰金

既報川前村大字川前字中の萱齋藤久義（四二）宅で花札賭博開帳した一味は左の如くけふ平區關口判事から略式を以て處分された

△罰金六十圓石工齋藤久義（四二）△同四十圓雜貨商山田孝一（四〇）△同三十圓農松本江四郎（四六）同大越元治（四四）木炭商安藤和太郎（四三）△同二十圓蹄鐵工山中利（三七）會社員猪狩隆星（五〇）

勿來から

……臨海學校……（六）

今日で六日、あと二日何んとなく名殘りのおしいやうな氣がします。

今日は待つてゐた平潟へ遠足の日、

朝の食事が終ると先生方はお辨當——日の丸辨當をつくるのに大さわぎです。清水校醫をはじめ、樋口、平塚兩先生が御見舞に來て下さつたのに、おにぎりへの御手傳ひです。お母さん達も見えたが、たすきがけ、鈴木先生（勿來尋常の校長先生）の奥さんはじめねいやさんの汗を流しての應援です。先生方は黑い、太い手で、丸いの、四角の、三角の、大きいの、小さいの色々の形のものが出來るさわぎ——テレビシヨン[illegible]つたらお家の人々に見せてあげたい奮鬪ぶりでした。

× ×

お辨當と、グリコ、ドロップのお菓子を包んで出發しました。途中浴場で、二つ島を背景に記念撮影——わざ〳〵出張してくれた中島寫眞屋さん——をしました。九面の海岸を過ぎ縣境に來た時は、「おい、俺は茨城縣だぞ。お前は福島縣だらう」……なんてのたわいもない言論戰がとつさの間に出ました。平潟八幡宮に參拜して、岡の上より平潟港のよい景色を見下して海に入りました。波のない泳ぐによい港、充分に、心ゆくばかり泳ぐことが出來ました。

× ×

先生方につくつていたゞいた日の丸辨當を防波堤でいただいて、晝休みをして、再び海に入る時は、町の人々は棧橋の上から僕等の泳ぎぶり上手な？、立派な？泳ぎぶり——を見下してゐます。港內の船まで往復四百米を見事に泳ぎ切り、再び記念撮影（都合三枚）をして、歸途につきました。

× ×

松川磯——相馬樣を鮫川、夏井川まで追つた鮫が住んだと云ふ傳說のある所、毎日僕等を遊ばしてくれた海岸——で再び海に入りました。砂に上つて今日も亦、角力です。人の山の中に、龍虎相搏つ熱戰を演じておやつを頂戴しました。

× ×

四時半歸舍して、僕等の勉强振りを寫眞にとつてもらつて、自由時間。お風呂に入る者、野球をするもの、ドッチボールをするもの。夕食はライスカレー（平マルトモ食堂特製の）だ。うんとお腹をへらして、うんと食べやう。

八月六日

平第一日歸り

臨海學校通信（六）

氣持のよい　朝の空
舞子につくと　直ぐにかゝる
朝の學習　松の葉越し、
きら〳〵と　今日の天氣を
約束する　お日樣の顏
みんな本氣　鉛筆
走らせる音　直に出來る
朝の學習　氣持のよい
朝の空　さあ海へ行こ
舟に乘つて　今日も
愉快に

八月五日（木曜日）晴後曇

樂しい臨海學校も後二日になつてしまつた。でも、毎日よいお天氣つゞきで、自分でも驚く程黑くなつた。中には背中の皮が、すつかりむけて、如何にも痛たさうな人もある。でも元氣はちつとも變らない今日は寫眞を撮るので、菅波先生もおいでになつた午前中は大變よい、お天氣だつたので、海へ出て鹽水を浴びたり、砂に轉んだり、置換競走をしたりして遊んだが、お晝から曇つて來た。午睡だ終るとテントの前に揃つて先生方も皆一緒に寫眞を撮。つたそれから砂原へ出て、キックボールをして居る所を一枚と、舟に乘つた所を一枚と、皆で三枚、撮つた五時半に歸つた。

× ×

尋三ノ四　坂本君作

今日も青空　嬉しいな
まつくろ　まつくろなお友達
そろつて　およいで
とびまわり　あそびつかれて
先生に　いたゞく
お八つの　おいしさよ
ほんとに樂しい　臨海學校

平職業紹介所

☒求人の部

△女工　四十歲迄　給料面談　尋卒程度
△鐵工　三十歲以下　給料面談　尋卒程度
△採炭夫　十八—四十才迄　日給一圓五十錢　尋卒程度
△印刷工　年令不問　委細面談　尋卒以上
△土工夫　敎育年令不問　日給一圓二十錢
△雜夫　敎育年齡不問　日給七十錢
△牛乳配達　三十才位　給料面談　高卒程度

☒求職の部

△鐵工　三十一才　尋卒
△雜夫　二十二才　高卒
△土工夫　四十九才　尋卒
△漁夫　三十才　高卒

JOHK

今晩の部

▼後六、〇〇　天然記念物めぐり　井上淸一
▼後六、三〇　長唄とお琴
▼後七、三〇　琵琶「伽羅の兜」田中旭隆
▼後八、〇〇　世界敎育會議總會實況
▼後八、四〇　秋田俚謠
▼後八、五五　連續講談「寬永三馬術曲垣平九郎の巻」伯鶴
▼後九、三〇　時報　ニュース　明日の話題　氣象通報　番組豫告

明日の部

▼前九、三〇　ラヂオ見學「明治神宮プール」同所中繼
▼前一〇、〇〇　日曜勤行　東京本郷弓町本郷敎會中繼
▼前一〇、四〇　講演「夏の害虫と益虫」德永雅明
▼前一一、二〇　趣味講演「書道漫談」吉田苞竹
▼後一、〇〇　滿洲新歌曲　李香蘭
▼後一、二〇　謠曲の午後「八島」武田喜男他
▼後三、〇〇　吹奏樂　大日本吹奏樂團
▼後七、三〇　國民歌謠「山は呼ぶ野は呼ぶ海は呼ぶ」オリオンコール
▼後七、四〇　日曜特輯ニュース演藝「北支事變の新軍歌」東京リーダーターフエルフエライン
▼後八、一〇　物語「爆彈三勇士」西村樂天
▼後八、三〇　水十夜　基隆港の海の音
▼後八、四〇　箏曲「秋の曲」菊仲茶秋他
▼後八、五五　連續講談「寬永三馬術向井藏人の巻」伯鶴

迎接院新盆に候處誠に勝手がましく候へ共時節柄提灯其他供物等御辭退申度御了承御願ひ申上げ候

平市田町　野崎滿藏

亡妻儀新盆に相當り候得共時節柄提灯其他御供物一切御辭退申上度候間御諒承願上候

平市堂ノ前　石田吉五郎

產科　婦人科　醫學博士　五十嵐雄二
病室增築、手術室完備
平市新川町　電話三六九番

白柄劍風連

大島多慶夫作
井川洗厓畫
（高）布施長春書
（第）村瀨春映書

二二三　白柄組惡化（九）

おろくは若しやこの人は水野の廻し者ではなからうかといふ疑ひが頭腦のなかへうかんだのであつた。

『御所。いつかお屋敷は番町だと仰有りましたな』

『うむ。番町ちやが……？』

『水野樣を御存知でござんすか。旗本、白柄組の……？』

『満更存じないこともない』

おろくはチリ〳〵と擦寄つて來た。そして、くの字に身體を折つて主水に凭れかゝつて、下からじつとその眼を見上げた。

『御所。あたしを可愛がつて下さんすのならば、何事も眞實のことを云つて下さんせ、あたしも僞りなしに何事も申ませう。存じて居ることならば……？』

『其志はうれしく思ふ。決して未來永劫忘れはしない。だがな』

と、主水はまた伏目になつてすこし躊躇ふ—が見えた。

おろくはてつきりと睨んだ。

『もしや。御所は水野樣の御家來ではござんせぬか』

『敵と』

と主水は咄嗟に顏色を變へた。そして、柔和な眼が鋭く張切つて來た。

だが、したゝかもの—おろくはビクともしなかつた。

『云つて下さんせ。御所に刃を立て樣さうと思つてゐるあたしではござんせぬか』

主水はいきなり脇差を手に取ると見えたが、スラリと素早く拔き放つた。

灯影をうけて燦然と光つた刀刃の凄さ。しかし、おろくは一にぢり膝をねぢつて、主水の方をじつと眺めた。が、何にほゝゝゝゝと可笑しさうに笑ひだしたのであつた。

突立つた主水は。四方から斷下さんばかりの構へをして刃を振り上げた。

おろくは一層わらひこけてゐる。主水はいかにも嘲弄されてゐるやうで、心憎かつたが流石眞に斬る氣持にもなれなかつた。

だが、猶一層おどかしてみるつもりで、わざと鋭い眼をして

『斬るぞ』

と、張のある爽かな聲で云つた。

おろくはいたつて平氣で、ちやんと座り直して兩手を膝の上へ置いた。

『さあ。斬つて下さんせ。惚れた男に斬られるのが、あたしの本望でござんす。さつぱりと一思からでも斬つて下さんせ』

と、すこしも怖ろしいやうな色は見せずに落着いてゐる。

じつとおろくを眺めてゐた主水の眼は優しく緩んで來た。刃をもつてゐる手は、しだいに力が緩んでさがつて來た。

『斬れない』

『なぜ斬らさんせぬ』

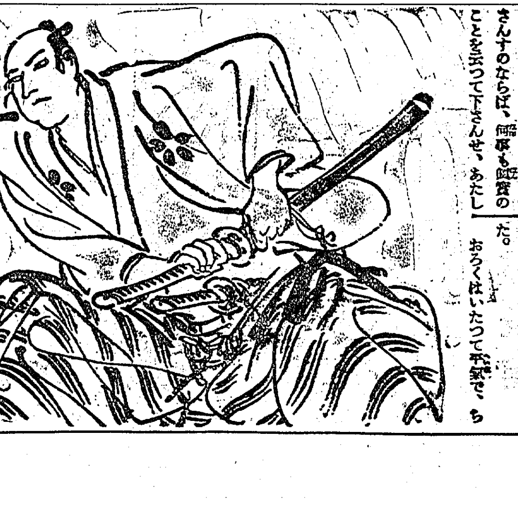
『俺はそなたに敗けた』

『あたしの心の底が御所にお解りになりましたか』

『うむ。わかつた。そなた。そんなに俺を慕つて呉れるか』

『まだ疑つてゐやさんすのか』

『いや。さうではないが……逢ふ瀬の短いお互ぢや。疑ふ心が起るのも無理ではあるまい』



「五攝家」の由緒
近衞家が筆頭です

非常時日本の總理大臣近衞公爵は、今までの總理大臣方にくらべて十歳も二十歳もお若いばかりでなく、五攝家と云ふ昔ながらの名家の筆頭近衞家の當主です、この五攝家と云ふのは、近衞家を第一に、鷹司、九條、二條、一條の五つの家を申します、何れも現在は公爵です、藤原氏の一族で、昔は代る／＼攝政、關白となる日本の政治に大事な家柄でした。

○

淸和天皇の御代に五攝家の祖先藤原の良房が攝政となり、その後しばらくその子孫が攝政となつてゐましたが、藤原氏の威勢が強いので源頼朝が惡い考へを起し、この藤原氏を二つに分けてしまひました。それで近衞、九條の二つの家が出來たのです。それからまたしばらくして二條、一條と鷹司の三つの家がふえて、こゝに五攝家が出來たのです。しかしいづれも五攝家と名の示すやうに攝政または關白となる立派な家柄なのです

子供常識　問答

龍卷

（問）龍卷はどうしておこるのですか？

（答）猛烈な旋風によつて水が卷き上げられ柱のやうになつて空中に昇るのです。昔の人はこれを見て、龍が天に昇るのだと云つて恐れたものです。旋風が起るとそれがために、その中心の空氣が薄くなつてほとんど眞空になる。そこへ水が入つて行くので柱のごとくになる。

雹

（問）雹はどうして降るのですか？

（答）雹は霰の更らに大きいもので夏は大抵は冬の霰にまじつて降つてくるものですが、雹はおほくは春の末か、夏に降ります。また雷雨に伴つて降る場合がおほい。

虹

（問）虹はなぜ現れるのですか

（答）虹は雨のあとゝか又は夕立の際に太陽と反對の天の一方に美しい橋をかけてあらはれるものです。虹の生ずるのは空氣中に浮いてゐる水滴に太陽の光りがあたつて、反射し屈折しておこるものですから、太陽の光りのないときは決しておこるのでありません。物理學では虹は圓形のもので、その中心と我々の眼と太陽とは一直線の上にあると云はれてゐます。

童謠　ホタル

細田忠男

ほう　ほう　ホタル
ホタル　こい
夕やみ夜やみ　の
あぜ道　を
提灯　かざして
とんで　こい

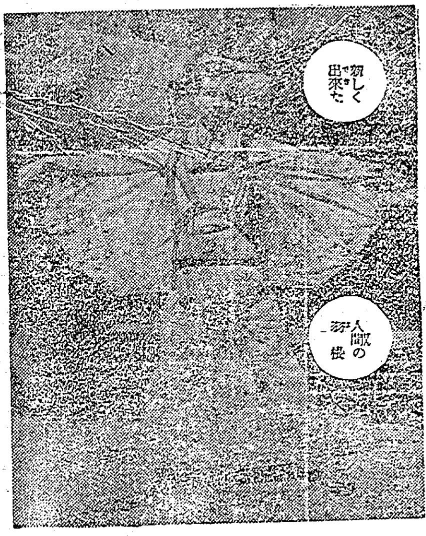
ベンキヤウシツ
暗い御空に住む　太陽と月

青空にかゞやいてゐる太陽は皆さんには、いつも高い青空のなかに住んでゐてさぞ氣持がよいだらうなどと考へられるでせうが、あの青空に太陽のある高いところにはないのです。私たちのすんでゐる地球から二十二キロメートルの高さのところまでしか青空はなく、それから上は眞つ暗闇なのです。ですから地球から一億五千キロメートルの遠方にある太陽はいつも黑い闇のなかにぽかつと浮かんでゐるわけで、月もまた同じことです

「ワシヤ憂鬱ぢや！」とヒグマの悲哀

「あアあ暑くて、いやだく夏なんてどうして、かう暑いんだろ」と、近ごろへこたれ組のオン大將は、北海道生れの「ヒグマ」です。猛獸のあはれなしよげつぷりを御覧なさい！　ほの暗い木かげへそッと逃げて、ドロンとした眼を力なくあけ、兩足をちゞめて、「わしや憂鬱ぢやよ……」とグッタリしてゐます。

見てゐますと、どこか可愛い坊ちやんが、ビスケットをなげてやりましたが、「そんなものほしかアないよ。そんな御親切があるなら、氷のカケラでも入れてくれたまへ……」といひたさうに、しよんぼり眼をあけた


新しく出來た
人間の羽根

これは佛國の飛行家が今度考案した人間の翼ともいふべきものです。パラシウトがひらくまで出來るだけ空中に留つてゐやうといふ寸法です。今に飛行機なんかなくともこんな姿で自由に大空をかけ廻る様になるかも知れませんね、そしたら人間はなんの仲間となるでせう

子供ニュース

牙のない象

ボンベイ發同盟郵信ー「象のキバはだん／＼に退化してきえようとしてゐる」とボンベイ自然科學會のモリス博士が發表しましたが、セイロン島では既にキバのない象が多數棲息し、インドでもキバをもたぬ牡象が次第に增加して來たといふのです

交通巡査にイス

シンガポール發同盟郵信ー炎天下の交通巡査といへば日本あたりでもつらい仕事の標本にされてゐます、これが赤道直下、アジア大陸最南端のシンガポールともなればその勞苦は大變なものです、それで從來から色々と交通巡査の勞苦輕減法が考へられてゐましたが今後この椅子に腰かけて交通整理にあたることゝなりました

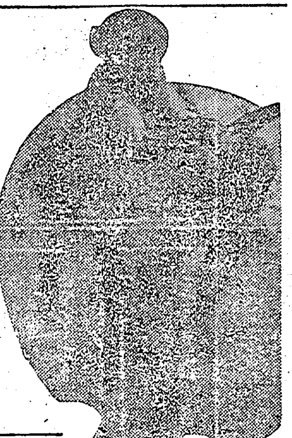
代金引換へで　子供を配達

クレアトン（ペンシルヴアニア州）發同盟ー米國ペンシルヴアニア州クレアトンの警察では最近「代金引換へ子供配達」サービスといふものを行つて、お父さんやお母さんたちの好評を博してをります、これは夜遊びの惡癖ある子供たちをもつ兩親が警察へ電話すれば警官がすぐその居る場所をつきとめて連れて來てくれるのですその時兩親は子供と引かへに少額の搜索費用をはらへばよいといふのです

人間の生命　平均百歳
百年後の世界はどうなるか

百年後の世界はどうなるであらう？、ペンシルヴアニア大學のテインダル・フランク教授は次のやうな推測を發表してゐる。お慰みまでに……

一、人間の生命が延びて平均百歳となる
一、世界一周は僅に二十四時間で容易に、しかも安全に可能となる
一、ラヂオが發達して、受信器は懷中時計と同じ大きさになる
一、月世界との交通が始まる
一、人工的に完全な太陽の光線がつくれる
一、婦人の美しさは年を老つても保たれる
一、天然色テレヴイジヨン──嗅覺トーキーの──が完成する



「あんちやん、うごいちやずるいよ。目が廻るなあ」

「はやく乘つかれよ、はやくしないとケトバすよ、ヒン、とン」

「なんだか、木登りよりムヅカシイアルナ」

急行列車の「燕」よりも速いぞ!!
巨人軍澤村投手の球速
何んと一秒間に三十七メートル

職業野球團東京巨人軍の至寶、澤村榮治投手の速球は、一秒間に幾メートル飛ぶか？同時に、これをスモークボール（煙球）で有名な米國のグローブ投手、最大急行列車の「燕」や、オリンピックの世界的巨人、米國のオーエンスなどにくらべると、どのくらゐの差があるか―ある熱心な野球ファンで、特に、澤村ファンの一人が調べたところによると―

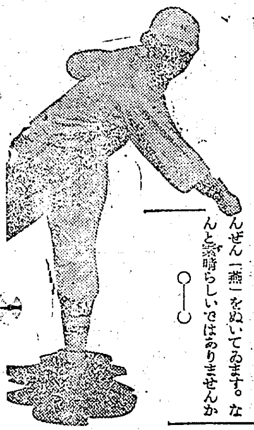
○―○

わが澤村投手の、一番調子のいゝ時の球速は、一秒間に約三十七メートルの速さでした。かうなると米國のグローブ投手は三十八メートルの記錄（一秒間に）をもつてゐるから、澤村投手に僅に劣り、最大急行列車の「燕」は、一秒間に二十五メートルの速度ですから、わが澤村投手の球のはやさは、だんぜん「燕」をぬいてゐます。なんと素晴らしいではありませんか

○―○

なほ、陸上競技の巨人オーエンスは、一秒間に約十メートルの速力をもち、また面白いのは、いたづら者のノミが、一秒間に約二三メートルのはやさでとぶさうですが皆さん！これはどういふ比較になるか？くらべてみてください！

（寫眞は澤村投手とグローブ）



諸君ご存じですか

日本から世界の各地へ郵便は何日位で行くでせうか、そのおもなる都市と日數は左の通りです

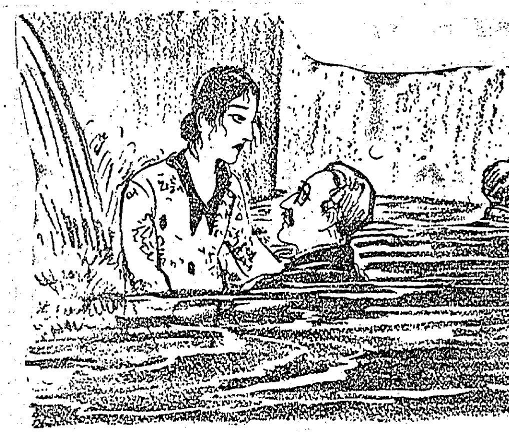
南京四日　カイロ十八日
北平四日　ロンドン十九日
桑港十二日　リオデジャネロ
モスコー十二日　（ブラヂル）
紐育十五日　三十一日
伯林十六日　ケープタウン

護れ太平洋の波

寺島柾史（作）
村瀬春映（畫）

二二三

最後の五分間（五）



『助けてくれ！』

上釣つた聲は妙に寂しい。

水かさは、いよ／＼つのる。洪水とちがつて、靜かに、刻々として水かさを增してくるだけに博士も、お瀧も、やはり死の直前の苦痛をかんじた。

しかし、二人とも、弱音を吐かない。

お瀧はもう、首だけになりながらも、微笑をすてない。博士は、あまりに悲壯だ。

上胸に水の壓迫をかんじながら博士は

『お瀧しやん抱いてあげようか』

といつた。

『どうして？』

『あんたは背が低いから。一番さきに死にさうだ。どうせ死ぬなら一緒の方がいゝから、抱いてあげよう』

『まア、親切ね……でもいゝのよ一足さきに死んで、死際のきれいなところを、あんた達に見せたいわオホ、、、』

『なか／＼潔よいが、しかし、死に際して、何か、やつぱりこゝろに思つてゐる事があるだらう』

『それは、あるわ』

お瀧は、ちよつと感傷的になる

『どんなことをおもつてゐる？』

『エリザさんの、身の上が、感じられるわ』

さういふお瀧の口もとまで、水かさは迫つてゐた。

あと五分とかゝるまい。永遠の沈默に入つてしまふまでは……。

『そのほかに？』

『もう、ほかにないわ』

『栗飯原の事をおもひださぬか』

『……』

『栗飯原君は、超人的な人間だよあの男のために、わしは、さんざんな目に遭つた。わしは、しかしあの男を愛してゐる。いや、愛したくなつたのだ。しかし、この僅かあの男と握手せずに死んでゆくのが、たつた一つのわしの不幸だ』

『栗飯原さんは、あたしとも喧嘩相手だつたわ……ほんとうに、あたしも、あの人と握手してた方がよかつたかしれない』

夢みるやうな、うつとりした眼付になつたとき、お瀧はもう口が利けなかつた。舌が硬かつたのでも、氣を喪つたのでもなく、水が、口元を塞ふたからだ。口を利けば、水を呑まなければならない。

死をおそれず、むしろ死を迎へてゐるお瀧も、水が口元まで迫るとさすがに唇を固く結んでしまつた。少し上向になつて、靜かに眼をつむつた。髮が亂れて、濁水に弄ばれ、顏にも襟際にもまつはつてゐる眞白い顏に死の崇高さがのぼつた

『お瀧しやん』

から話かけたクーパー博士はこのさまをみると、おもはず手をのばして、お瀧を抱いて差上げた

『何をするの？』

『一緒に死にませう』

『いゝえ、どうか離して……あたしも日本人です、死際をきれいにしたいわ』

お瀧は、博士の手をふり解かうとするが、博士の腕は、鋼鐵のやうに硬い。

『ね、離してよ』

『いけません』

『だつて、あんただつて、もう五分も經てば、同じ運命になるンぢやない？』

『さうかもしれない……しかしさうでないともいひ得る』

『どうして』

『最後の五分間に、われ／＼は救はれないともかぎらぬからね』

もう濁水は博士の頤を浸してしまつた。

『そんなの、夢ぢやない？』

『どうせ夢かもしれない、だが、その最後の五分間は、じつに神聖な瞬間だ。わしと一緒に、その運命の手を待たうぢやないか』

『……』

お瀧はもう、博士の腕からのがれようとはしなかつた。これもあれも夢……すべてを、運命の五分間に委ねる氣になつた。

暑中御伺

磐城炭鑛株式會社

入山採炭株式會社

古河炭鑛　好間礦業所

石城郡銀行組合

日本ゼネラルモータース株式會社　シボレーポンテアク販賣店
株式會社福島モーター商會　平出張所
平市三丁目　電話一八七番
本社福島市　支店山形市

鹽屋　山崎合名會社　平市

銅鐵商　山田文一商店
平市仲町通り　電話一六二番

阿部政右衛門
平市撥鑓小路　電二三七番

平市長臨時代理　青沼鋒太郎

縣會議員　平市會議長　野崎滿藏

縣會議員　平市會副議長　蓮沼龍輔

高橋亀松
平市白銀町　電話六三八番

最優最大日本生命保險平代理店　魚問屋　志賀盛榮
平市四丁目　電話二一三番

平製氷株式會社
社長　木村清治
專務取締役　松本一郎

合資會社平電氣鑄鋼所
電話二六番

合資會社平製作所
電話四一番

新古賣買麻袋　山田麻袋商店
内郷村字境　電話平一九二番

堀江工業株式會社
平市　電話五一九番

平運輸株式會社
平驛前

大日本電力　平營業所
電話一五四番

磐城無盡株式會社
平市大町　電話三七八番

借りるに簡便　預けて有利　平庶民金庫
電話四九三

石城郡内　各學校長會

平看護婦會
會長　清野キヨ
平市南町　電三〇七番

貸切、タクシー、乘合　鈴木自動車部
平四丁目　電二一七番

和泉屋旅館

三井タクシー
平市　電話六八五番

自轉車商　惠比壽屋商店
平市南町　電話六六四番